



朝来市役所まちづくり協働部市民協働課
〒669-5202 兵庫県朝来市和田山町東谷 213-1
TEL 079-672-3065

www.city.asago.hyogo.jp

ASAGO LOCAL VITALIZATION COOPERATOR EXPERIENTIAL REPORT 2022

朝来市地域おこし協力隊レポート



2022

ASAGO LOCAL VITALIZATION COOPERATOR EXPERIENTIAL

朝来市地域おこし協力隊

朝来市では、平成 26 年度から地域おこし協力隊の制度を導入しています。これまでに 16 人の隊員が任期を終え、内 15 人が市内に定住しています。現在は計 7 名が活躍中。地域のみなさんとともに、地域を元気に、楽しく、そして、自分らしく、いきいきとがんばっています。

2022 採用までの流れ

RECRUIT ASAGO LOCAL VITALIZATION COOPERATOR EXPERIENTIAL



1. Recruitment flow まずは体験ツアーへ参加

自分の目で朝来市を見て、自分の耳で聴いて、肌で感じてから決めて欲しい。「ちょっとイメージが違う」「はじめて聴く話やった」「なんかこのまちで活動してみたい」協力隊になって地方で暮らすのは大きな決断なので、私たちは皆さんが「決める」後押しをしたい。一泊二日に内容を詰め込んだ、朝来市地域おこし協力隊体験ツアーを開催します。

2. Matching 地域とマッチング

地域ではあなたに、あれもやってほしい、これもやってほしいと、期待することがたくさん。全て聞き入れたいけど、私たちには限られた時間しかない。成果を大きくするには「あなたのできること・やりたいこと」と「地域があなたに期待すること」をマッチングさせること。そのための話し合う場を設けます。



3. Presentation & Interview 提案会 & 面接 ...そして採用決定！

体験ツアーと地域とのマッチングの成立を終えたら、あなたが考案するミッションを伝えるための提案会を開催します。審査のポイントは定住とミッションの実現性。そして、あなたの「やりたい」という熱い気持ち。朝来市と共にあなたの夢を叶えましょう！審査が通ると面接後、採用決定です。

朝来市の協力隊になって、地域をおこそう！▶

隊員の声

新入隊員

地域おこし協力隊
高木 香里
Kaori Takagi

愛犬といつも一緒！研究が毎日楽しいです。

Mission

両棲類・サンショウウオ研究者

高木隊員のミッションは、オオサンショウウオなどの研究を行いながら、サンショウウオ類を切り口とした環境教育、普及啓発活動を行うことです。そして、朝来市生野町黒川にあるオオサンショウウオの専門研究機関、(特非)日本ハンザキ研究所の活動を盛り上げ、地域の振興にもつなげていく、というものです。



「一年間、地域おこし協力隊員として過ごしてみて」

6月には最初の大きな事業として「日本オオサンショウウオの会・朝来大会」の開催をお手伝いしました。地球上にオオサンショウウオの仲間が生息するのは、アメリカと中国と日本だけです。その3か国の研究者がそれぞれ最新の研究を紹介しあい、議論するという初の試みでした。海外の研究者はコロナ禍のためオンラインでの発表になりましたが、大変有意義な大会であったと思います。また、11月には日本爬虫両棲類学会主催の沖縄大会にて研究発表を行いました。多くの研究者の発表も聴くことができたので、とても良い刺激になりました。市内の学校もいくつか回って環境学習も行いましたし、朝来市でのオオサンショウウオに関する新たな研究もスタートしました。

「朝来市の高校生の印象は？」

私は東京の高校でも教壇に立っていた時期があって、その時絶対に笑いが取れた鉄板のネタがいくつかあるのですが、朝来市の高校では全然大変な感じがなかったんです。関西だから「お笑い」のレベルが高いのかなあ・・・と少しショックでした。生徒のみなさんとコミュニケーションを取って仲良くなりつつ、私自身面白い授業ができるように精進していきます。

「最後にサンショウウオの魅力を教えてください」

オオサンショウウオ科の仲間は約2,000万年前から大きく姿を変えずに今も生き続けています。人類の祖先が誕生したのが約200万年前なので、人よりもこの世界では先パイです。生きる化石ともいわれています。多くの生き物は、危険が迫った時に、攻撃したり素早く逃げて乗り切ります。ですが、サンショウウオは、特別な武器は持っていないし、動きもとてもスローです。私が指でつついても、ぼーっとして逃げない時もあります。そんなおっとりしたサンショウウオが、人よりもとても長い間、地球上で生きてこられたのは、何かサンショウウオたちにしかできない特別な能力や工夫があるからなのではと思っています。私はそれを調べ続けたいと思っています。サンショウウオは性格はのんびり、外見は胴長短足の愛らしい生き物です。その魅力やすごいところを皆さんに知ってもらえるように、頑張ります。



卒業隊員

Ryo Taguchi
田口 亮
地域おこし協力隊4期生



与布土での生活を楽しんでいます。

Mission

耕作放棄地の活用と地域のサポート

田口さんは、2018年7月から2021年6月まで与布土地域自治協議会で活動されました。「地域自治協議会の法人化を支援する」というミッションで配属され、2年目には、協議会の収益部分を別建てで法人化、一般社団法人が立ち上がりました。「当時苦労を共にした役員の方々には、卒業後も気にかけてもらっています」とのこと、良い関係が続いています。任期中はミッションに取り組む傍らで研修やセミナーにも参加したことが、経験を積む良い機会になり、今の取り組みにもいかされていると感じているそうです。



「任期を終えて一年半がたちました。最近はどうな感じですか？」

任期終了直後は、与布土地区の一員としてダムの管理に参加させてもらったり、(一社)朝来まちづくり機構、与布土地域自治協議会など、今までの活動でお世話になった団体でお仕事させてもらったりしていました。スケジュールの管理が大変だな、と思い始めたそんな矢先の2022年1月に水質検査をメインとする会社に縁あってお勤めすることになりました。工学部応用化学科を卒業したので、その分野についてある程度の知識もあったので、特技を生かせる良い職場だと感じました。ダムでの仕事とこちらでの仕事と二つに絞ることができたので、やりたかったことに時間を割けるようになりました。

「やりたかったことって何ですか？」

「音楽とキャンプで一次産業を盛り上げよう」というイベントの企画です。現役隊員のころに知り合った、地域の仲間と一緒に取組んでいます。都市部に参加を呼び掛けて、生産者をつなげることができたらと考えています。キャンプだと宿泊も伴うので、より濃密な関係を作れるのではないかと考えました。同じメンバーで、耕作放棄地が目立つ与布土地域の迫間区を中心に、6,000㎡の農地を管理しています。斜面にある農地なので維持管理は大変ですが、今はニンニクを植えており、これからも、ああしょう、こうしょうと色々なアイデアが出ています。将来的に、こちらの分野が趣味の範囲を超えて、お金を稼げるようになればいいなと思っています。





Thema

「地域おこし × デザイン」

Rehan Nel × Kevin Nel × Sho Sakiyama

「みんなにとって、地域活性化ってなに？」

ケビン イメージを変えることです。「田舎」っていうマイナスなイメージを、こっちの方がカッコいい、っていうイメージに変えてしまうことだと思っています。都会にはないオリジナルの原風景や独自の文化、古き良きライフスタイルが地方には残っています。

レハン 外国の方が初めて日本に来たら、京都、東京、大阪に行くでしょう？僕も最初は京都を見て、これが日本だ、と感動したけど朝来市に住んでみて本当の日本は田舎に残っていると思った。

崎山 僕も、伝統的な文化や形式を受け継いでいくことは大切だと思うけど、それだけではダメで、「新しい何か」を足していないといけないと思います。その「新しい何か」が難しいところなんですけど。でも、この「サイクリングステーションあさご」などはその「新しい何か」に間違いなく残っているし、

ネル兄弟の活動も伝統的で良いものをより輝かせるものだと思います。

ケビン 郡上八幡とか倉敷とかとてもいいですね。

崎山 そうですね、外観は昔のままだけど、水回りの設備は新しかったり、インテリアや照明はかっこよかったり、とかいいですね。

レハン 朝来市は伝統工芸があまり残っていなかった。みんな使い捨ての物を買うようになって、高くてもいいものを長く使うことをしなくなった。昔の日本の伝統的な製品は、使い続けられることが前提でデザインされていました。そもそもサステナブルだったんです。日本は他の海外に比べても、「修理して使う」じゃなく「壊れたら買い替える」文化になってしまっているのが寂しいです。

ケビン 大量生産、大量消費じゃない、持続可能なライフ

スタイルやシステムをデザインできたらいいですね。

崎山 目に見えないものをデザインするってどういうこと？と思うかもしれませんが、要するに「体験」をデザインするということです。例えば、テレワークやワーケーションとか何処でも仕事ができるようになりました。そのような環境下で、どのような働き方を提案できるか、ということが大切です。僕が今かかわっている和田山のコワーキングスペースも、「素敵な場所」を作る事ではなく「朝来市で暮らしながら仕事ができるイメージ」を提案することが目的なんですよね。

レハン 都会ではコミュニティがないから、寂しく暮らして仕事をするしかない。田舎だったら、お年寄りの方やいろいろな人とすぐに知り合いになれるし、余った野菜をもらえたりできるのも素晴らしい体験です。朝来市で働く方がカッコいい、ってしたいですね。

「将来の展望」

レハン やっぱり、定住ビザが取得できるかが心配ですが、とりあえずインバウンド向けのツアーを充実させたい。多くの観光客がくれば、マーケットが大きくなる。お店や仕事が増えること、経済が循環することに貢献したい。あとは生野にもコワーキングスペースを作りたいです。中でもデザイナーやアーティストが集まるような仕掛けをしたいと思っています。そういう業種の人が集まり始めると、化学反応とか進化がありそうです。

サイクリングや農業体験を通して新しいインスピレーションを得たり、結果的に住みたいに繋がったり、になればいいですね。

ケビン NPO も立ち上げたので、ミッションであるサイクリング観光を盛り上げていきたいのはもちろんだけど、サイクリングのためのインフラをもっと整備できたら、と思っています。日本では「しまなみ海道」が一番成功事例ですが、道路の表示やお店のスタンド、サイクリストのためのシャワー設備などが整っています。例えば姫路から朝来までサイクリングで来やすくなれば、すごくサイクリストも増えると思う。

崎山 朝来市で2年間過ごしてみて感じているのですが、みなさん素晴らしい取り組みをされているのにやり方が昔のままなのももったいないんですよ。もうちょっとこうしてみたら、とか、こういう見せ方もありますよ、とかサポートしてあげたいです。若い移住者の方や、朝来市で何かやりたいと言っている人のお手伝いなんかもしたいです。いろいろコンテンツを増やしたいって思いも強いし、やりたいことはたくさんあるけど自分は一人だけだし選べなくてもやもやしてます。

レハン 大きな目標を決めてバックカastingで考えるといいんじゃない？

崎山 そうですね、10 年 20 年先を思い描けるようになりたいですね。20 年後の目標を考えるのが今年の目標ってことにしましょうか？（笑）

ケビン ネル Kevin Nel

朝来市のサイクリング観光振興に取り組む。サイクリングガイド、お土産物デザイナーもこなしつつ、「道の駅あさご村おこしセンター」におしゃれなサイクルベースと、サイクリング事業を実施する（特非）モニターニュを立ち上げた。いつもケビンは大忙しで、市内を飛び回る。



崎山 祥 Sho Sakiyama

大蔵地域を拠点に、若者が参加したくなる地域活動の実現に向けて日夜市内を駆け巡る。マルシェもフリマも協力隊の募集ブースでさえ、なんだかオシャレに変身させるデザインのチカラにいつも驚かされる。もっともっと朝来市をおもしろくするために奮闘中。



レハン ネル Rehan Nel

いくの地域で、空き家を活用したゲストハウス事業に取り組む。フォトグラファー、映像制作、サイクリングガイド、もちろんお土産物だって作ってしまうマルチタレント。自治協議会内に設立されたクリエイティブ生野（株）で事業を拡大し、国際的な地域づくりを目指す。



Thema

「地域おこし × 食」

Shuhei Kitagawa × Charles Chi × Ikuko Yoneda

「最近、いかがですか？」

北川 1 月はどうしても鹿の入りが良くないですね。猟師さんも 12 月に頑張って捕られて、たくさん納めていただけたので何とか供給はできていますが。年明けは寒波もあったし、波があるなあ、と感じています。

チャールス ハンバーガーですが、冬は岩津ねぎやなべ物の注文が多くて少し売り上げが下がりました。ですが、道の駅のキッチンで働くのは楽しくて、すべてのメニューを作れるようになりました。新しいメニューを考えたり、レイアウトを変えたりということもしています。

米田 自宅の倉庫として使われてた部屋を改修して、食品の加工所にしたいと考えています。とりあえずたくさんあった荷物を搬出しましたが、床も壁も水回りもこれから改修が必要です。天井板も外して広く使いたいし、どうしようかなあ、と考えているところです。野草の事ももっと知りたくて勉強しています

「料理をすること」

北川 道の駅で料理するのは楽しい？

チャールス はい、だしを取ったりトンカツを揚げたり、丁寧に料理をするのは楽しいです。

北川 おお、愛情込めて作られているんですね。

米田 フライも作るんですね。

北川 鹿肉もカツにすると美味しんですけどね。鹿肉って、皆さんどうやって調理したらいいかわからないと思うんですよ。上手く料理したらとても美味しいのですが、シンプルに焼いただけとかだと牛肉や豚肉の方が食べなれているし値段も手ごろだし勝てないと思うんですよね。その点プロはしっかり美味しくしてくれるので、やはり個人消費よりも飲食店に、っていうルートをメインにすべきなのかなあ、って最近考えています。米田さんはご主人が捕ってきた鹿肉はどうしてる？

米田 やっぱりカツが美味しいので、よく作ります。そのまま炒めて少し濃い味付けにしたり



北川 修平 Shuhei Kitagawa

大蔵地域で、有害鳥獣として捕獲された鹿肉の有効活用に取り組む。猟師さんに捕らえられた鹿を回収し、上質な精肉として出荷できるよう工夫をしている。固いとか、臭いがある、とか誤解されがちな鹿肉の、本当の魅力を伝えるための活動も行っている。



チャールス チ Charles Chi

「道の駅あさご村おこしセンター」の将来を見据え、新メニューの開発や SNS での発信などを行う。カリフォルニアスタイルのハンバーガーと鹿肉を使ったブリトーは、週末のスペシャルメニューとして定番化してきた。持ち前のユーモアを活かして、道の駅の PR に挑む。



米田 育子 Ikuko Yoneda

糸井地域朝日区という標高 300 メートルの地域で、交流人口の拡大や朝日のファンを増やす取り組みを実施。自然農法での米、野菜の栽培や、交流会の開催、交流拠点にするため古民家である自宅の改修などに奮闘中。野草茶の魅力に気づき、商品化に向けた準備を始めている。



します。脂質が少ないので、薄味だと物足りなく感じてしまうんですよ。ピーマンやナスとか夏野菜とは相性がいいですね。いつも食べ方はワンパターンになってしまって、もっとバリエーションを増やしたいですけど。

北川 チャールスが作っている鹿肉のブリトーも美味しいので、一度食べてみて欲しいです。

「3人で協力できること」

チャールス 米田さんは、野菜を作っていますか？探しているハーブがあります。「ベイジル」と言います。

米田 野菜は少しですが作っていますよ。「ベイジル」？あ、「バジル」？

チャールス そうです！日本人はバジルと言います笑。なかなかスーパーマーケットに売っていないです。コリアンダーやローズマリーも欲しいです。

米田 コリアンダーってパクチーですね。バジルとかローズマ

リーなら簡単なので作ってみてもいいかも。何に使うんですか？

チャールス ピッツアをメニューに加えたいと思っています。岩津ねぎのピッツアを作りたいです。あと、道の駅の店内もレイアウトを変えたりリノベーションをしたりして、お客さんが comfortable（居心地よく）に過ごせるようにしたいです。

米田 いいですねー。私も今取り組んでいる加工所をなるべく早く完成させて、野草茶を製造できるようにしたいです。

北川 実は僕も朝来市の南側に鹿肉精肉の工房を作りたい、という野望があるんですよ。今は地理的に朝来町までしか行けなくて、生野の鹿を受け入れできないんです。北部でも南部でも受け入れできたらいいですね。まあでも人手がなくて、どうしたものか悩んでいるところです。あ、チャールス良ければうちの仕事一度体験してみない？

チャールス Oh, OK! いいですよ。

北川 ほんまに？なら次誘うで一笑。山に入るから長靴と汚れてもいい服装できてやー。

1. Follow up **フォローアップ体制について**

隊員それぞれのミッションが実現するように、フォローアップ研修会の開催や、協力隊が集まる定期ミーティングの実施による「悩みの共有」や状況を打開するための意見交換会などをおこなっています。また生活の支援・活動の支援は、所属団体において相談できる者を明確にすることを心掛けています。海外から着任した隊員には市の国際交流員などによる支援もおこなっており、初めての土地でもいきいきと活動ができるよう隊員の状況に応じたきめ細やかなフォローアップ体制を整えています。



2. Tripartite training **想いを確認し合う「三者研修」の実施**

地域おこし協力隊制度において、隊員は最大3年間の期間の中で、「地域から求められる地域課題の解決」と、主に「任期後の生業づくり」につながる活動が求められます。この2種類の活動が必ずしも、1つの道につながるとは限りません。その場合「隊員」・「地域」・「自治体」という三者の思いのズレにつながらないように、それぞれが求めることや、ミッションの進捗状況などを確認する「三者研修」を実施しています。また市長や副市長、地域の関係者の皆さんに対して活動状況を発表する場を設けることで、隊員は新たな協力者を得たり、活動の方向性の確認をしたりしながらミッションの達成を目指します。



3. Work balance **任期終了後の理想形と活動のバランス**

「地域から求められる地域課題の解決」と「任期後の生業づくり」に関する取組の延長に、定住のための生活を支える仕事づくりが位置づけられるのが理想です。任期終了後を見据えながら、3者で活動のバランスを話し合います。その際に、標準的な活動の割合を概ね「5（地域支援活動）：3（定住に向けた活動）：2（協力隊のチーム活動）」となるように調整しています。



電車をご利用の場合【山陰線・播但線】和田山駅下車

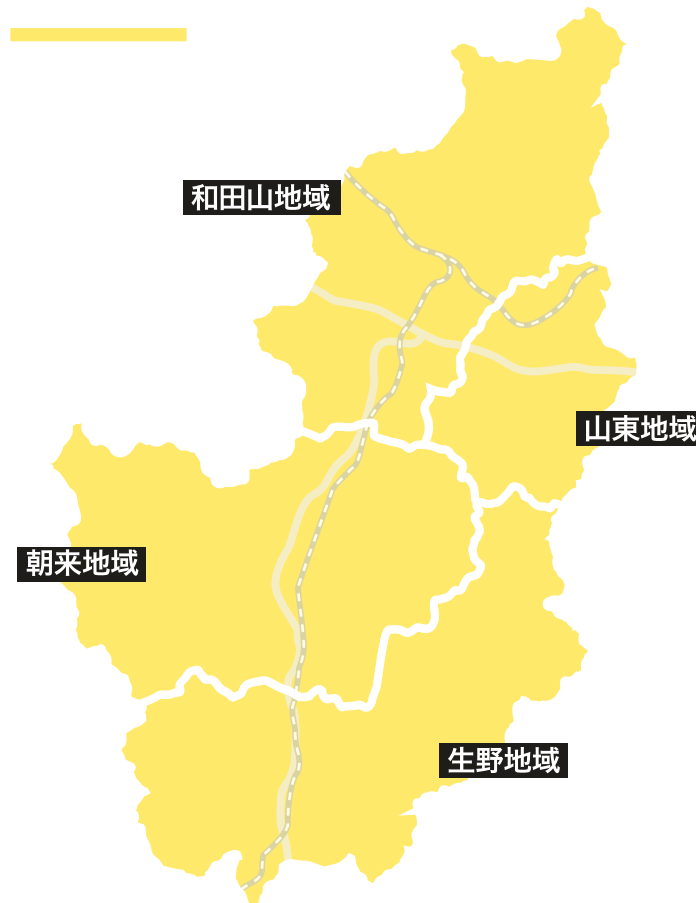
- ・大阪より特急で約2時間10分（福知山線経由）
- ・神戸より特急で約2時間（播但線経由）
- ・姫路より特急で約1時間（播但線経由）
- ・京都より特急で約1時間50分（山陰線経由）
- ・鳥取より特急で約2時間（山陰線経由）

自動車ご利用の場合

- 中国自動車道（福崎IC）→ 播但連絡道路（和田山IC）下車
 ・大阪より約2時間 ・神戸より約1時間50分
- 中国自動車道（吉川JCT）→ 舞鶴若狭自動車道（春日JCT）→ 北近畿豊岡自動車道（和田山IC）下車
 ・大阪より約2時間 ・神戸より約1時間50分
- 国道9号線利用
 ・京都より約2時間30分 ・鳥取より約2時間



MAP



生野鉦山のまちとして鉦山文化や景観が色濃く残る地域



人口が最も多く「天空の城竹田城跡」がある地域



美術館や鉦山遺構、茶畑など多様な側面を持つ地域



田園風景が広がり、旧街道沿いに酒蔵が並ぶ注目の地域